

令和4年度全国学力・学習状況調査結果の報告

会津若松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

(1) 調査に関する概要

実施日	令和4年4月19日(火)	
実施人数(実施校数)	870名(19校)	854名(11校)
調査学年	小学校6年生 義務教育学校6年生	中学校3年生 義務教育学校9年生
調査教科	小学校:国語、算数、理科	中学校:国語、数学、理科
その他	質問紙調査(児童生徒対象・学校対象)	

(2) 教科に関する調査結果の概要(平均正答率)

		会津若松市	福島県	全国
小学校6年生	国語	64	64	65.6
	算数	61	61	63.2
	理科	62	62	63.3

- ・国語、理科については、全国平均をやや下回り、県平均と同じでした。
- ・算数については、全国平均を下回り、県平均と同じでした。

		会津若松市	福島県	全国
中学校3年生	国語	66	68	69.0
	数学	45	47	51.4
	理科	45	48	49.3

- ・3つの教科について、全国及び県平均を下回りました。

(3) 全国学力・学習状況調査における目標値

※ 全国平均を100としたときの、調査を実施した全教科における目標値は、下記のとおりです。
年度によって、2教科(国語と算数・数学)が実施される場合と3教科(国語と算数・数学に加え理科もしくは中学校英語)が実施される場合があります。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
小学校6年生	102.2	102.9	103.6	104.3	105.0
中学校3年生	98.6	99.2	99.8	100.4	101.0

【参考】全国平均と比較した結果の推移

		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校6年生	国語	98.8	102.0	100.5	101.9	中止	102.0	97.6
	算数	98.1	104.4	101.7	94.6		98.3	96.5
	理科	—	—	101.2	—		—	97.9
	実施教科計	98.4	103.2	101.1	98.2		100.1	97.3

		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
中学校3年生	国語	97.3	100.3	96.1	96.2	中止	99.1	95.7
	数学	91.9	94.8	92.0	93.6		89.2	87.5
	理科・英語	—	—	95.3(理)	89.3(英)		—	91.3(理)
	実施教科計	95.0	97.9	94.5	93.3		94.4	91.9

各市立学校の結果について

公表にあたり、市の平均正答率に加え、市立学校の各教科における調査について、全国の平均正答率を基準とした結果を学校数で公表いたします。

公表内容は、学校の序列化を意図したものではなく、共有されるべき大切な情報の一つとして市民の皆様にご公表するものです。

市民の皆様には、今回の公表内容に加え、各学校から提供される情報（学校だよりやホームページ等）をご覧くださいませようをお願いいたします。

今回、調査を実施した全6教科について全国の平均正答率を下回っている状況にあり、学力向上が重要な課題であると認識しております。

今回の結果を会津若松市の学校教育における取組の結果として受け止め、改めて取組を振り返り、今後の対策や施策へ反映してまいりたいと考えておりますので、ご理解とご支援をいただきますよう、お願いいたします。

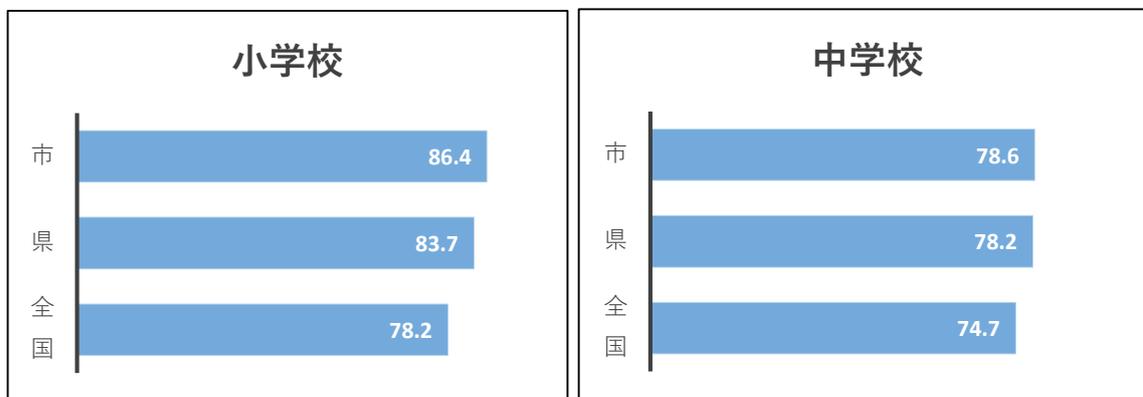
教科に関する調査結果一覧

教科に関する 調査結果一覧 (参照：H30 年度理科)		小学校 義務教育学校前期課程			中学校 義務教育学校後期課程		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
Aグループ 全国平均を上回る (全国平均+2以上)	R3	9校	6校	【H30】6校	2校	1校	【H30】3校
	R4	6校	6校	6校	6校	3校	3校
	(R3比)	(-3)	(±0)	(±0)	(+4)	(+2)	(±0)
Bグループ 全国平均をやや上回る (全国平均 +1以上+2未満)	R3	2校	3校	【H30】0校	3校	0校	【H30】2校
	R4	3校	2校	2校	0校	0校	0校
	(R3比)	(+1)	(-1)	(+2)	(-3)	(±0)	(-2)
Cグループ 全国平均とほぼ同じ (全国平均±1未満)	R3	2校	1校	【H30】7校	3校	0校	【H30】0校
	R4	0校	0校	2校	0校	1校	1校
	(R3比)	(-2)	(-1)	(-5)	(-3)	(+1)	(+1)
Dグループ 全国平均をやや下回る (全国平均 -1以上-2未満)	R3	1校	1校	【H30】1校	1校	2校	【H30】0校
	R4	1校	1校	1校	0校	1校	1校
	(R3比)	(±0)	(±0)	(±0)	(-1)	(-1)	(+1)
Eグループ 全国平均を下回る (全国平均-2以上)	R3	5校	8校	【H30】5校	2校	8校	【H30】6校
	R4	9校	10校	8校	5校	6校	6校
	(R3比)	(+4)	(+2)	(+3)	(+3)	(-2)	(±0)

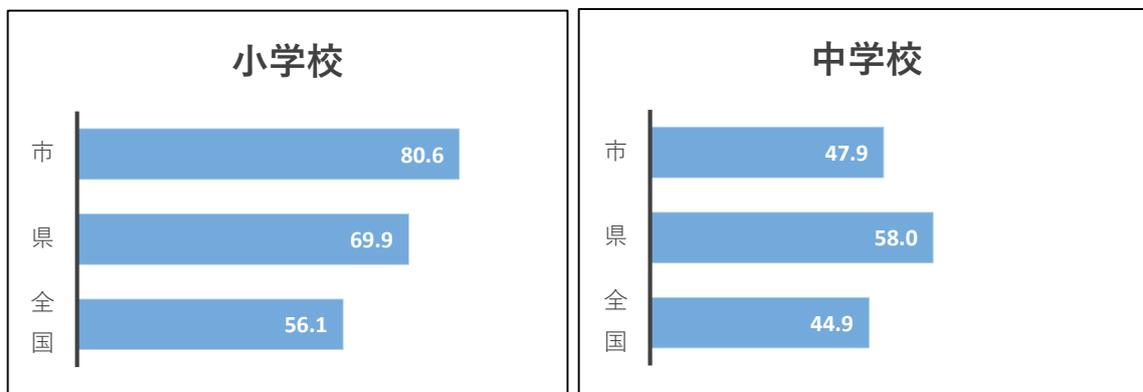
(4) 質問紙調査に関する主な結果

① 「あいづっこ」の強み(よさ)

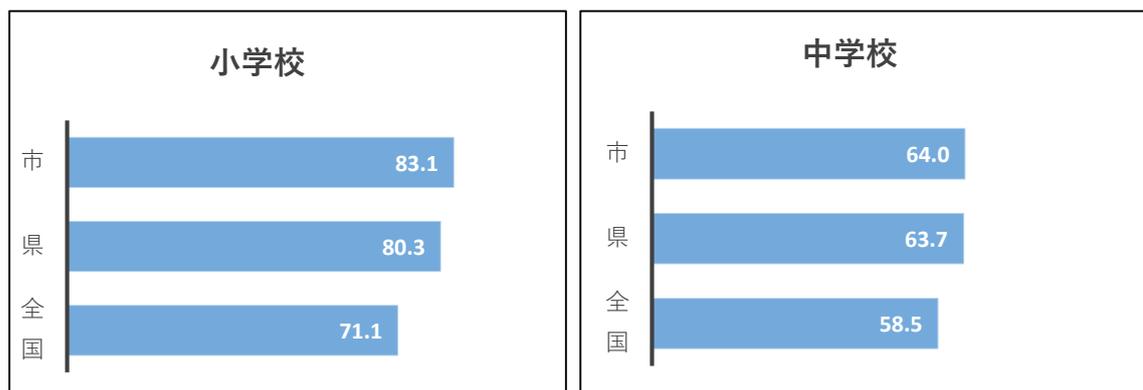
「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。



「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については「1時間以上している」と回答した割合が、中学校については「2時間以上している」と回答した割合が、全国平均を上回っています。

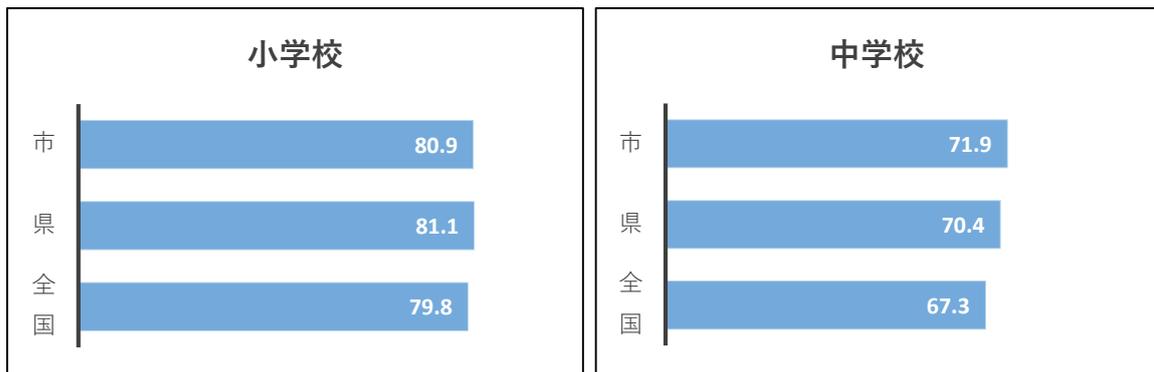


「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。



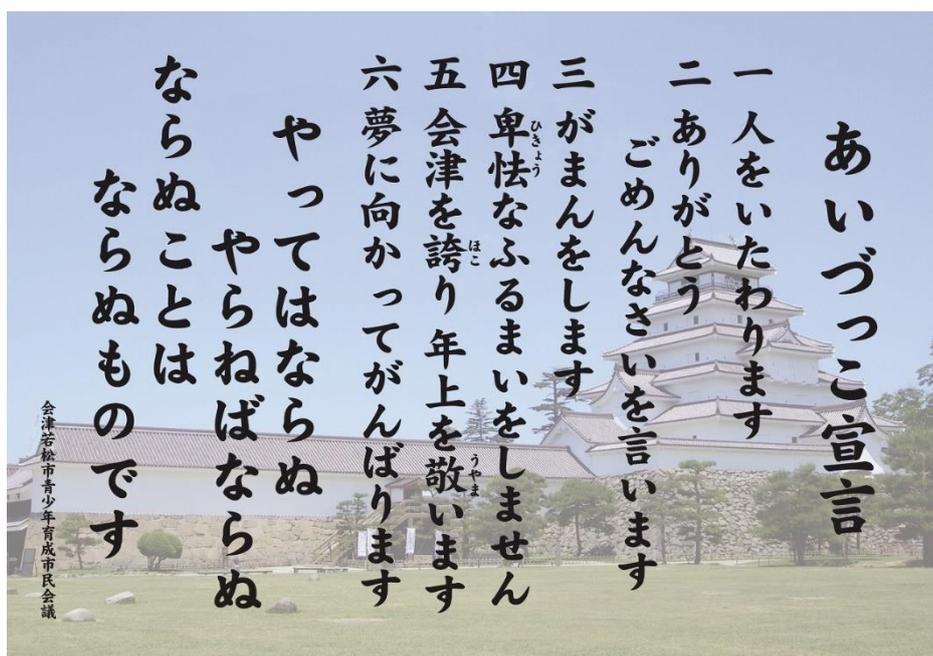
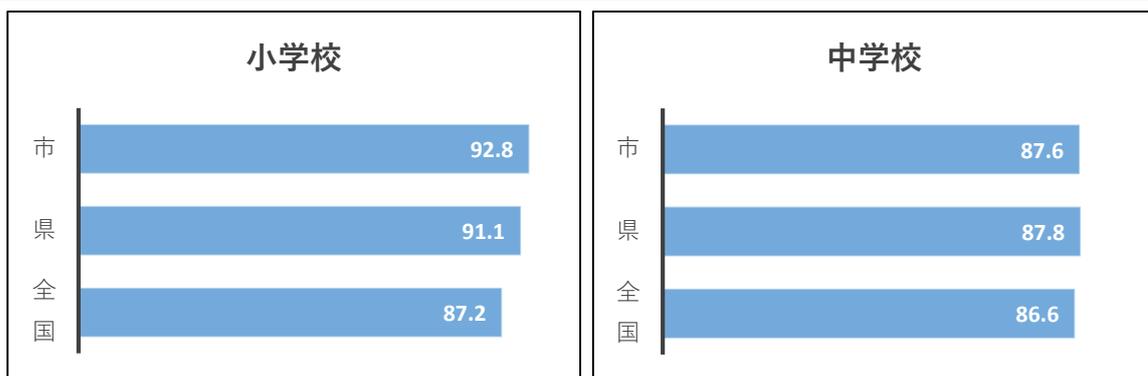
「将来の夢や目標を持っている」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。

🏠 関連：あいづっこ宣言「夢に向かってがんばります」



「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答している子どもの割合が、全国平均を上回っています。

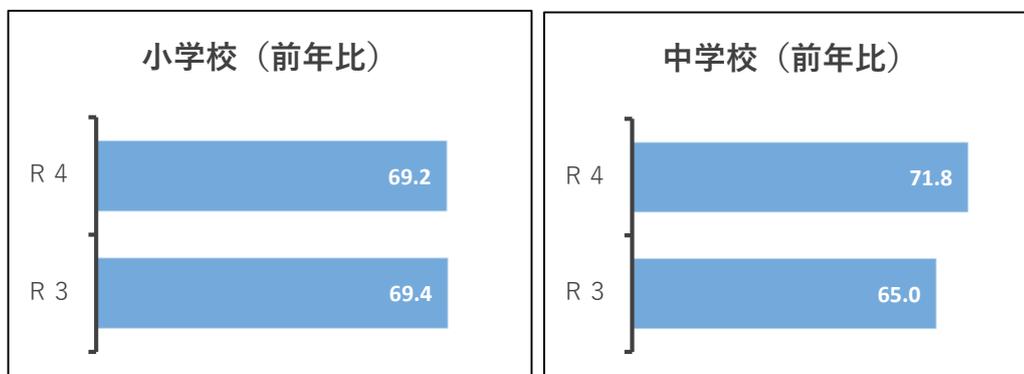
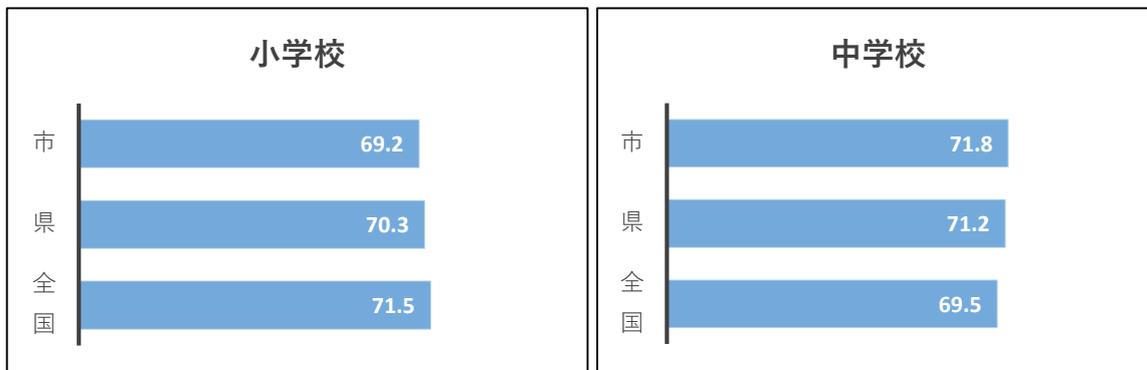
🏠 関連：あいづっこ宣言「がまんをします」



②「あいづっこ」の課題

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した子どもの割合が、小学校では昨年度に引き続き全国平均を下回りました。中学校では、全国平均を上回り改善が見られました。

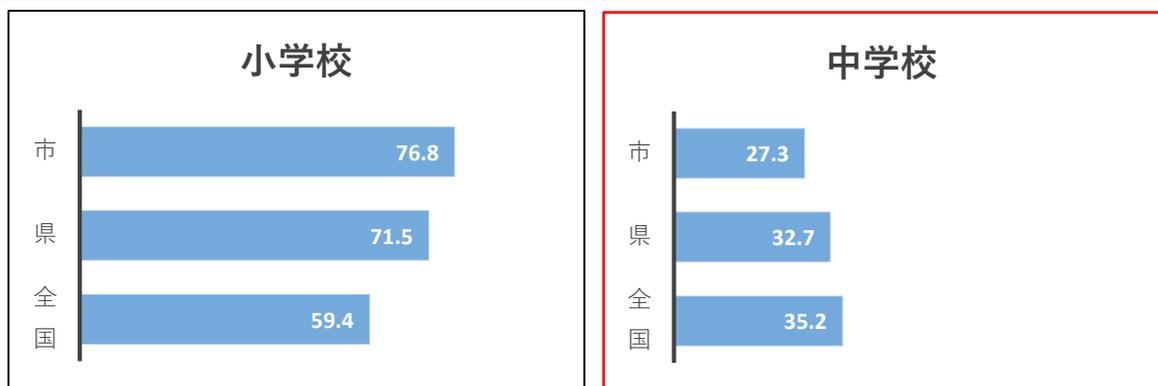
🏠「あいづっこ『携帯・スマホ等使い方（使わせ方）宣言』を活用し、学校・家庭・地域が一体となった取組の継続が必要です。



「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については本市の目標値である「1時間以上している」と回答した割合が、全国及び県平均を上回っています。

中学校については目標値の「2時間以上している」と回答した割合が、全国及び県平均を下回っています。

🏠小学校と中学校の連携、学校・家庭・地域が一体となった取組が必要です。

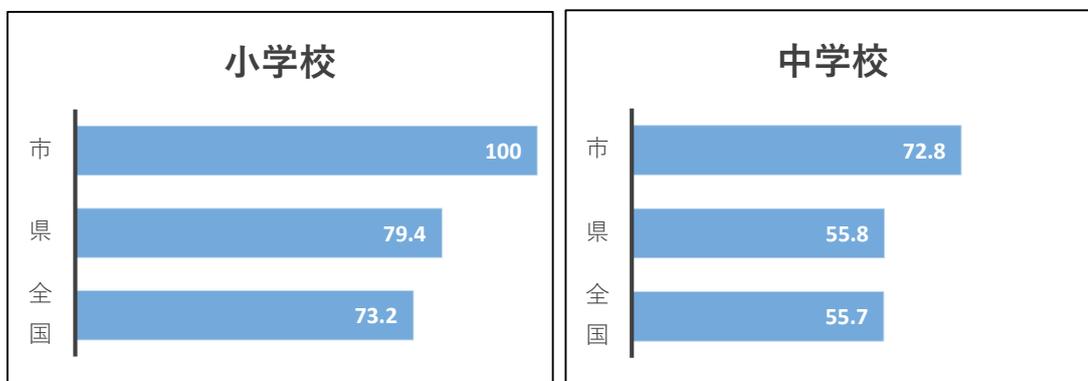


③市立学校における取組の状況

【全国平均を上回る主な項目】（肯定的な回答の割合）

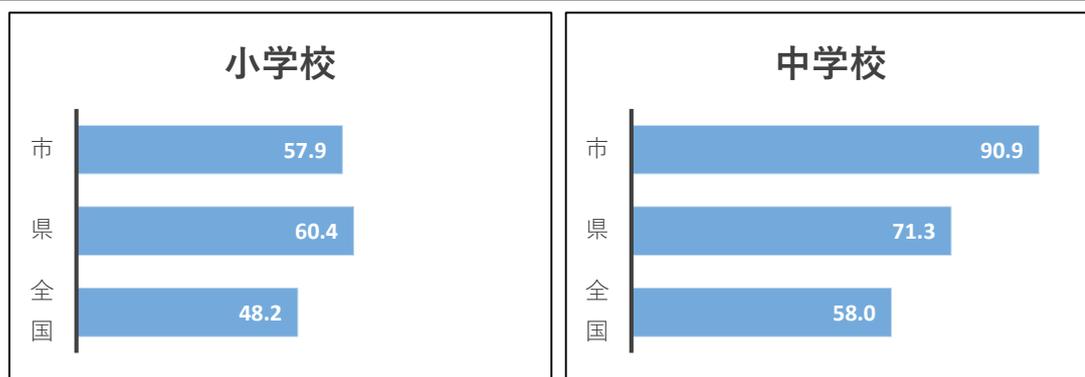
「前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行った」と回答した学校の割合が、全国平均を上回っています。

☞教職員が連携し、授業改善に向けた取組を継続していく必要があります。



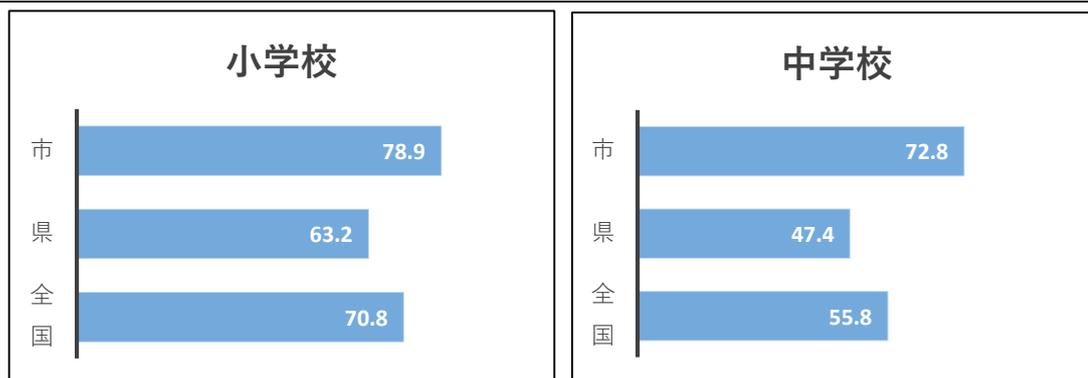
「前年度までに、近隣等の中学校と（小学校と）、授業研究を行うなど、合同で研修を行った」と回答した学校の割合が、全国平均を上回っています。

☞中学校区を単位とした小中連携を深めていきます。



「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った」と回答した学校の割合が、全国平均を上回っています。

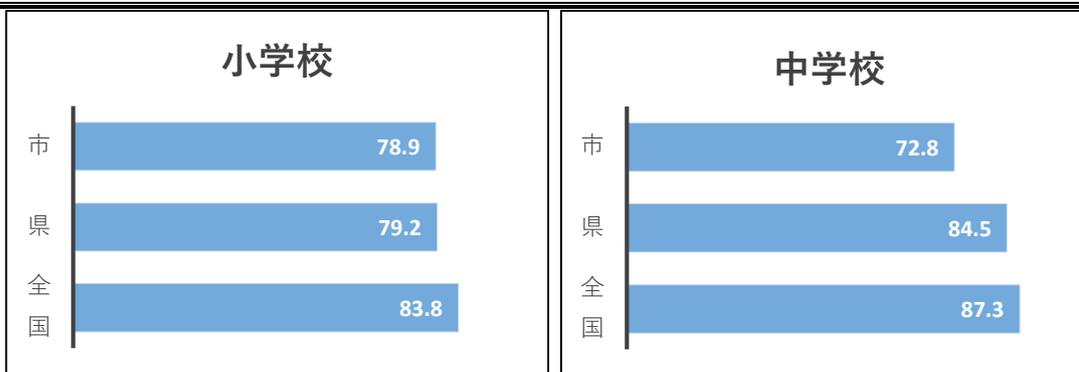
☞全ての市立学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとなっています。地域学校協働本部の活用と併せ、取組を推進していきます。



【全国平均を下回る主な項目】

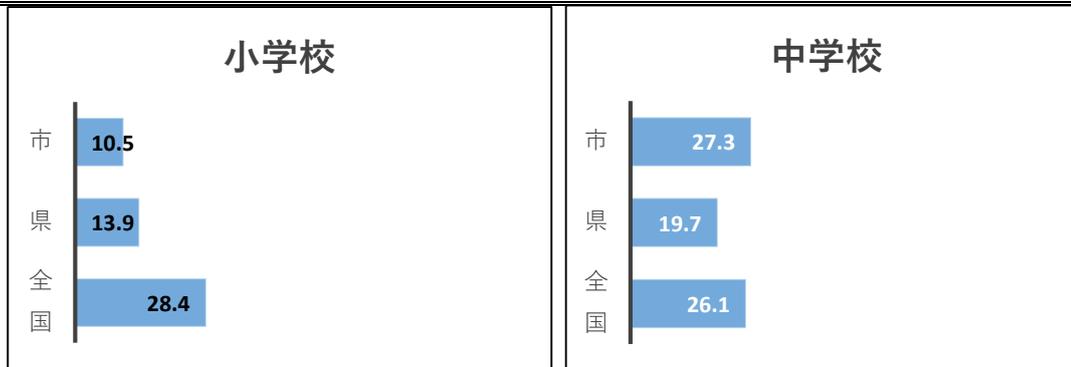
「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う」と回答した学校の割合が、全国平均を下回っています。

☞自分の考えをもち、話し合いをとおして自分の考えを深めたり、考えたことや学んだことを振り返り次の学習につなげたりすることができる児童生徒を育成していきます。



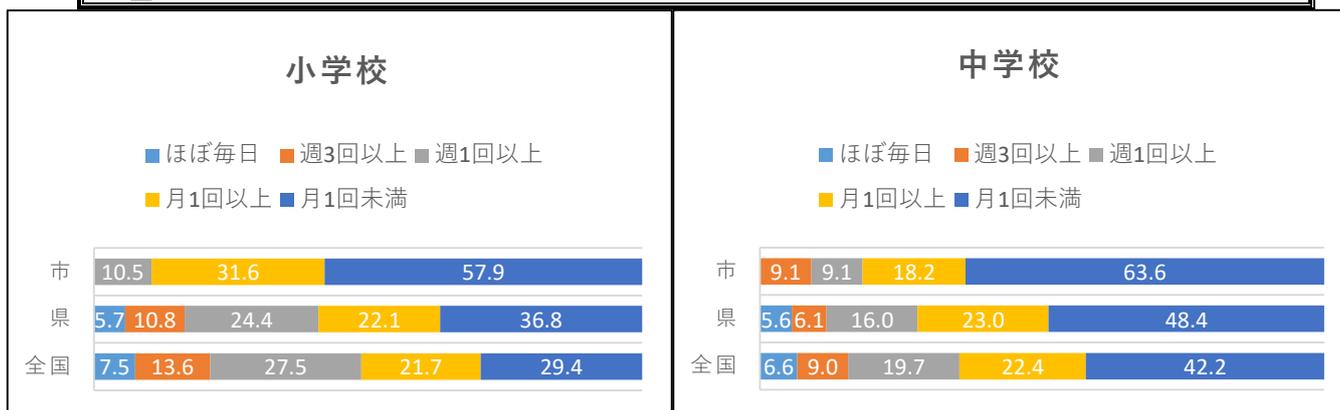
「調査対象児童生徒に対する算数（数学）の指導として、前年度に、算数（数学）の授業における習熟度に応じた指導を行った」の質問に、「年間の授業のうち、おおよそ4分の1以上行った」と回答した学校の割合が、小学校では全国平均を下回っています。中学校では、全国平均を上回っていますが、割合は高くありません。

☞習熟度に応じた指導等を取り入れ、個に応じて補充や復習をしたり、発展的な学習に取り組ませたりしていく必要があります。



「調査対象児童生徒に対し、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を見習生特性・学習進度等に応じた指導に活用した」頻度が、全国平均より少ない結果となっています。

☞PC・タブレット端末を、個別の学習等に効果的に活用する必要があります。



2 教科に関する結果

(1) 各教科の状況

※ 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の問題については、

・ <https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

(国立教育政策研究所ホームページ)

をご覧ください。

①小学校6年生 国語

会津若松市	福島県	全国
64	64	65.6

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
1一	87.7	85.5	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。	話し言葉と書き言葉との違いを理解する。
3三 イ	71.7	58.7	【文章2】の中の——部イを、漢字を使って書き表す。(はんせい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
3四	79.8	77.9	(一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する。	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く。

【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
1二	60.3	68.8	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する。	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。
2一 (2)	60.9	70.6	「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する。	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。
2三	53.2	59.2	【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する。	表現の効果を考える。

②小学校6年生 算数

会津若松市	福島県	全国
61	61	63.2

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
2 (1)	74.4	71.1	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す。	百分率で表された割合を分数で表すことができる。

【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
3 (1)	69.9	75.3	表のしりとり欄に入る数を求める式と答を書く。	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる。
3 (2)	59.4	63.9	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ。	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。
4 (1)	41.5	48.8	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる。

③小学校6年生 理科

会津若松市	福島県	全国
62	62	63.3

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
1 (2)	69.9	67.5	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く。	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。
4 (2)	67.2	64.5	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ。	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。

【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
②(2)	66.9	70.0	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ。	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。
④(1)	78.3	82.3	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ。	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。
④(3)	40.4	45.5	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ。	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。

④中学校3年生 国語

会津若松市	福島県	全国
66	68	69.0

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
②三	48.6	46.5	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。
④一	41.7	39.4	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。	行書の特徴を理解する。

【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
①三	41.7	51.8	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。
③一	46.3	52.5	「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。	表現の技法について理解する。

3四	67.1	73.8	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。
----	------	------	---------------------------------------	------------------------------

⑤中学校3年生 数学

会津若松市	福島県	全国
45	47	51.4

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
1	58.0	52.2	42を素因数分解する。	自然数を素数の積で表すことができる。

【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
4	28.5	37.9	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。	一次関数の変化の割合の意味を理解している。
7 (1)	34.3	44.0	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴に基づき選び、選んだ理由を説明する。	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
9 (1)	60.9	73.2	証明で用いられている三角形の合同条件を書く。	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

⑥中学校3年生 理科

会津若松市	福島県	全国
45	48	49.3

【全国正答率を上回る主な設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
3 (1)	80.8	80.1	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す。	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかを見る。

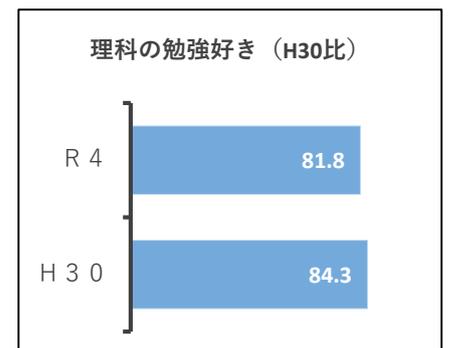
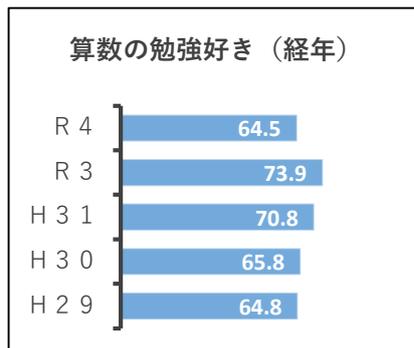
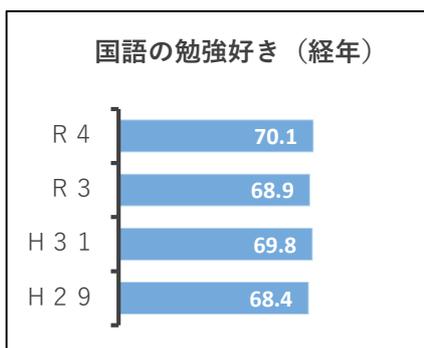
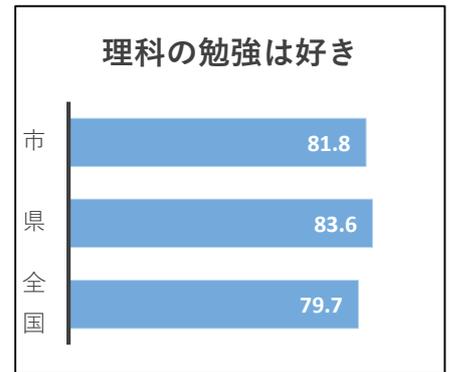
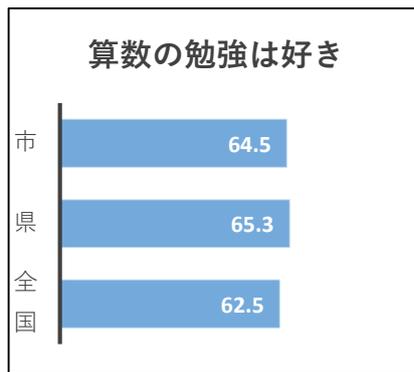
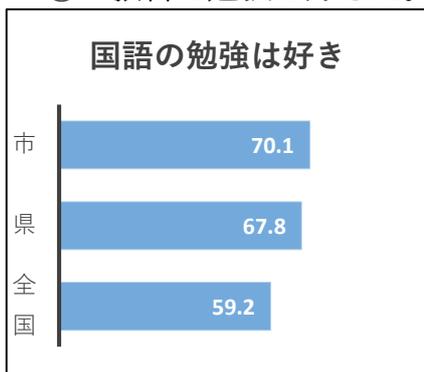
【全国比で特に課題の見られた設問】

問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
	会津若松市	全国		
2 (2)	32.8	40.8	気圧、気温、温度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する。	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかを見る。
6 (2)	52.6	60.3	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する。	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる。
8 (2)	46.4	55.1	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実践の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する。	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる。

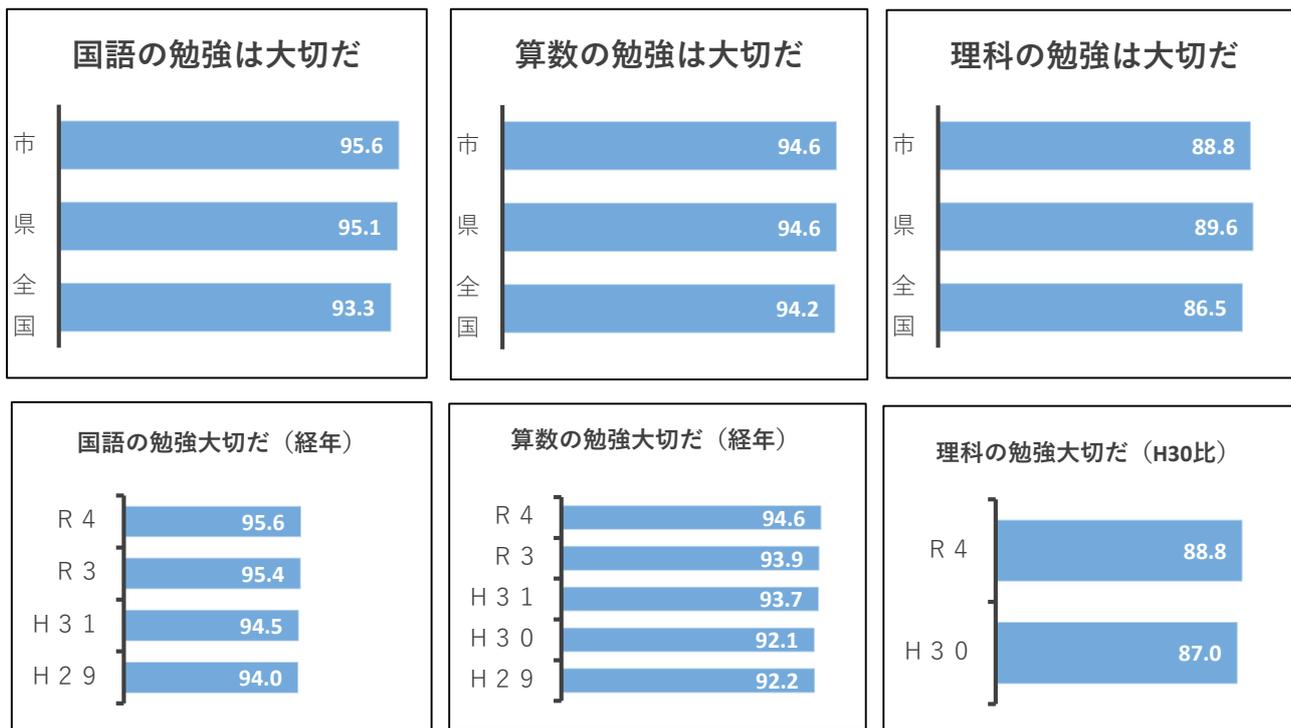
(2) 教科に関する質問紙調査の結果

【小学校6年生】

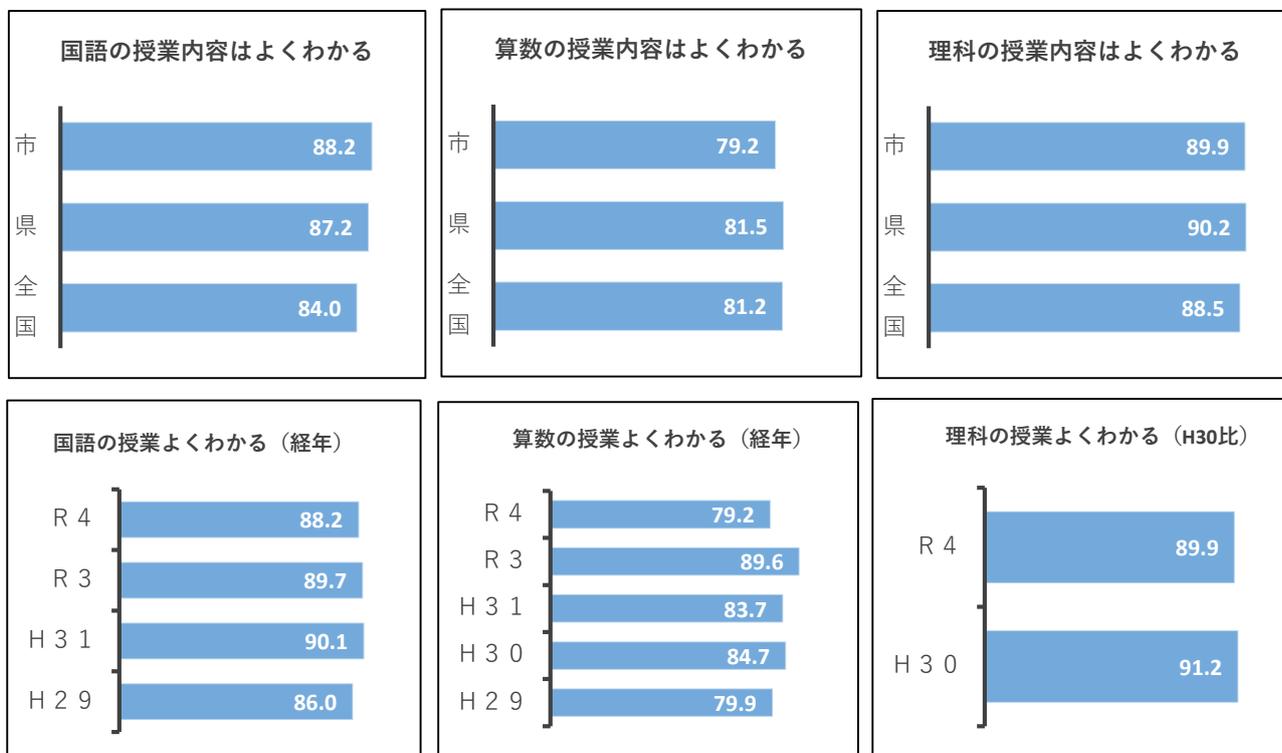
① 教科の勉強は好きだ。



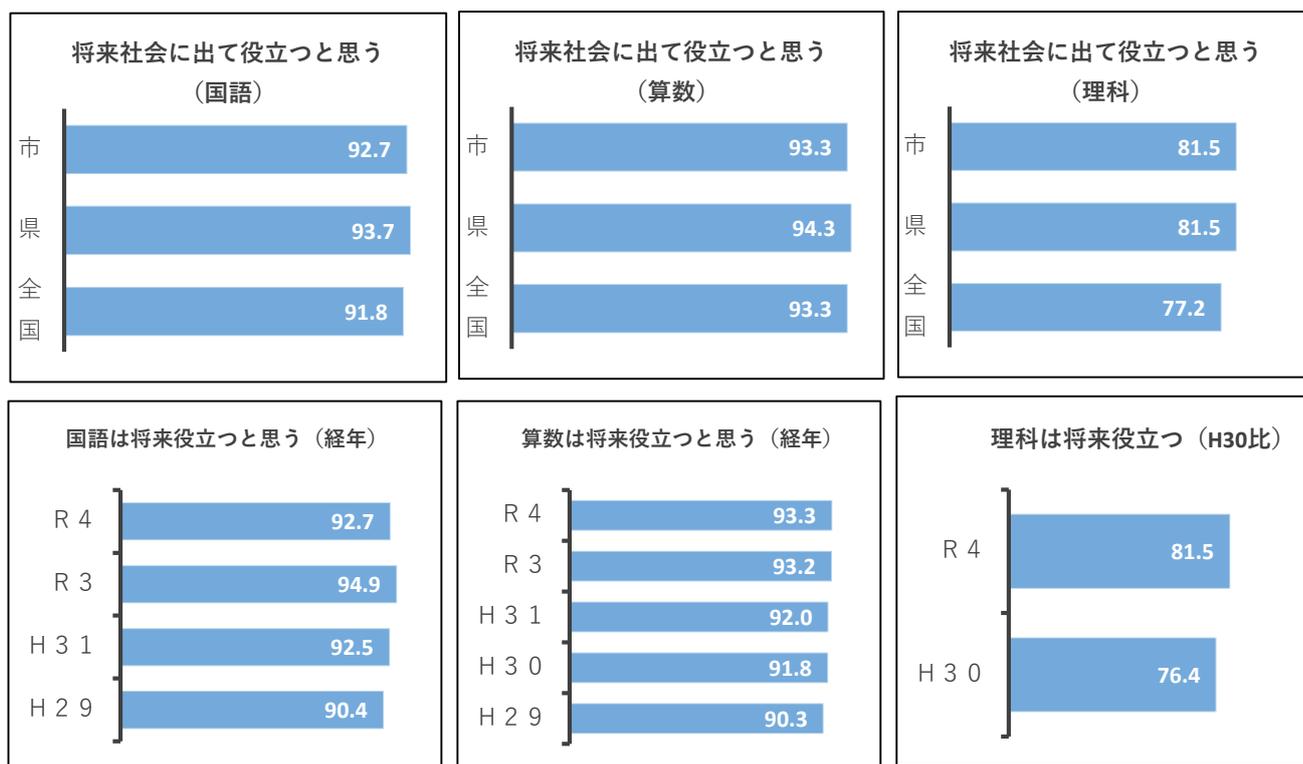
② 教科の勉強は大切だと思う。



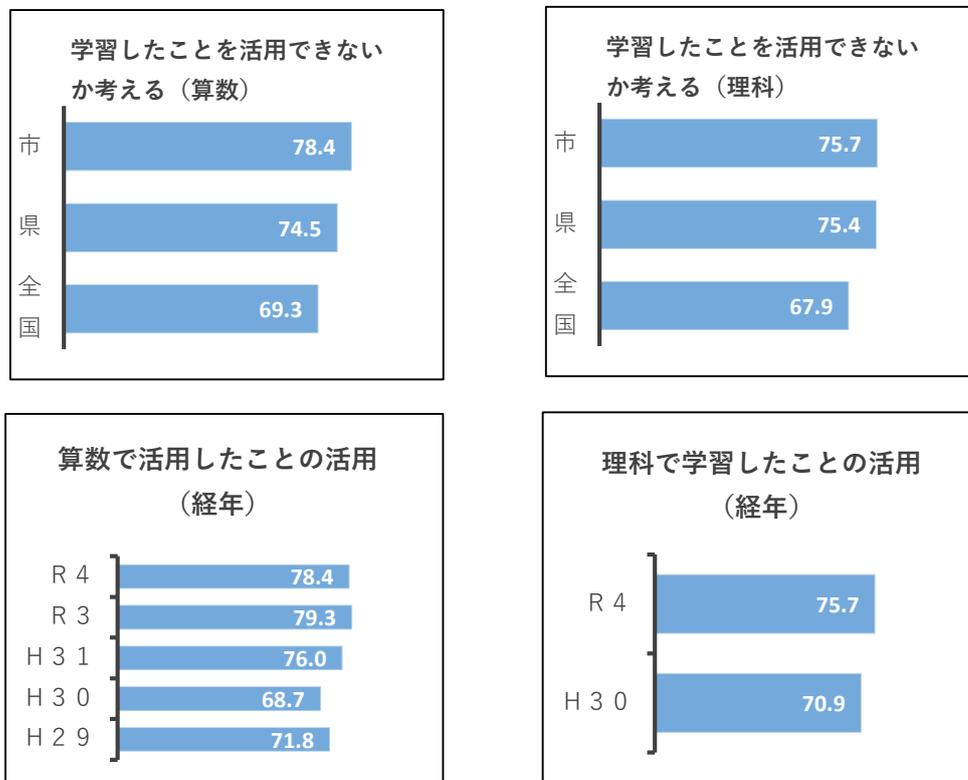
③ 授業の内容はよく分かる。



④ 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

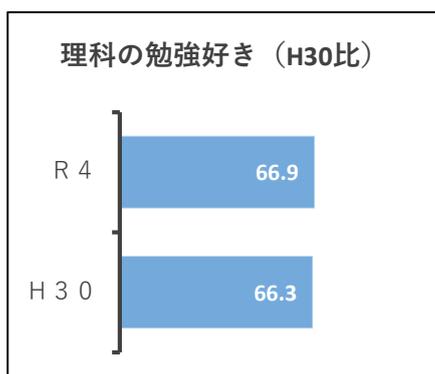
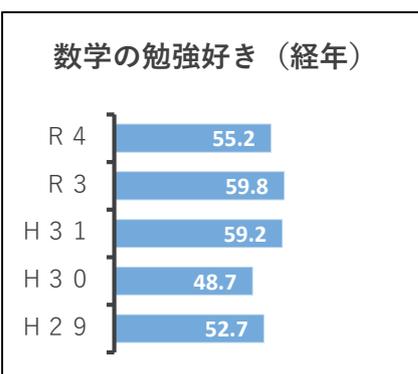
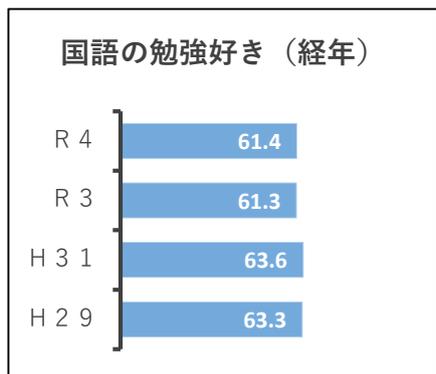
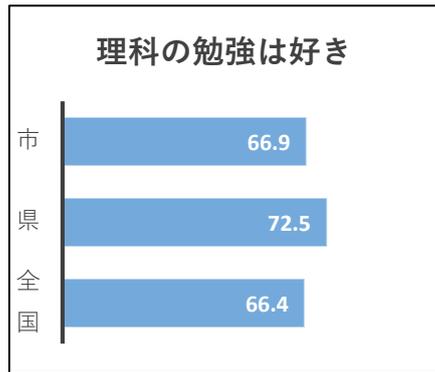
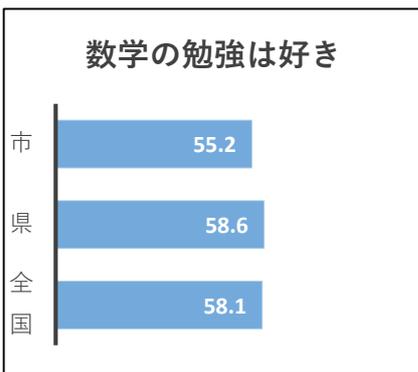
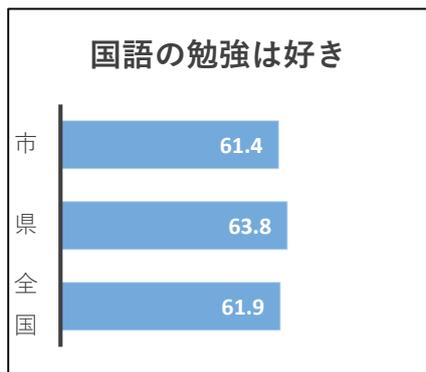


⑤ 授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。

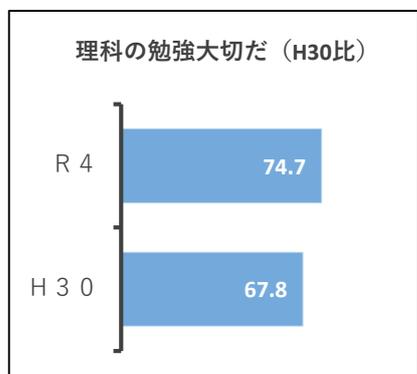
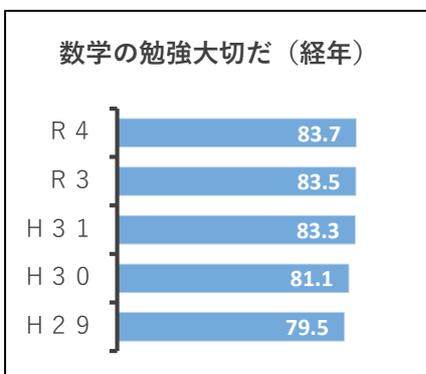
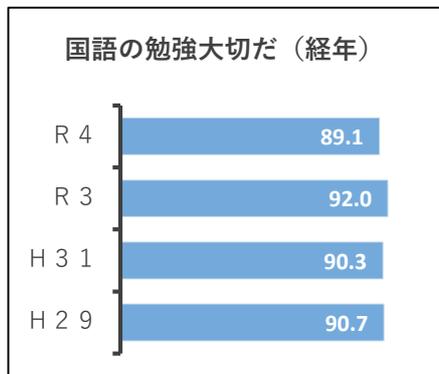
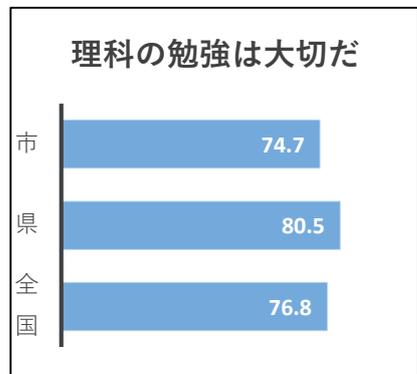
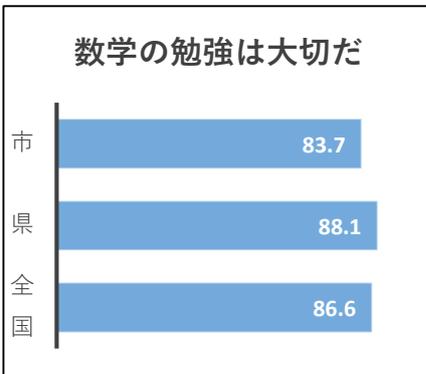
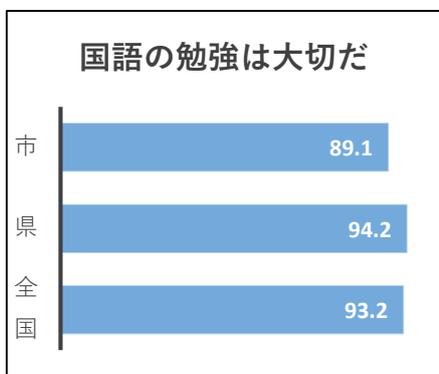


【中学校3年生】

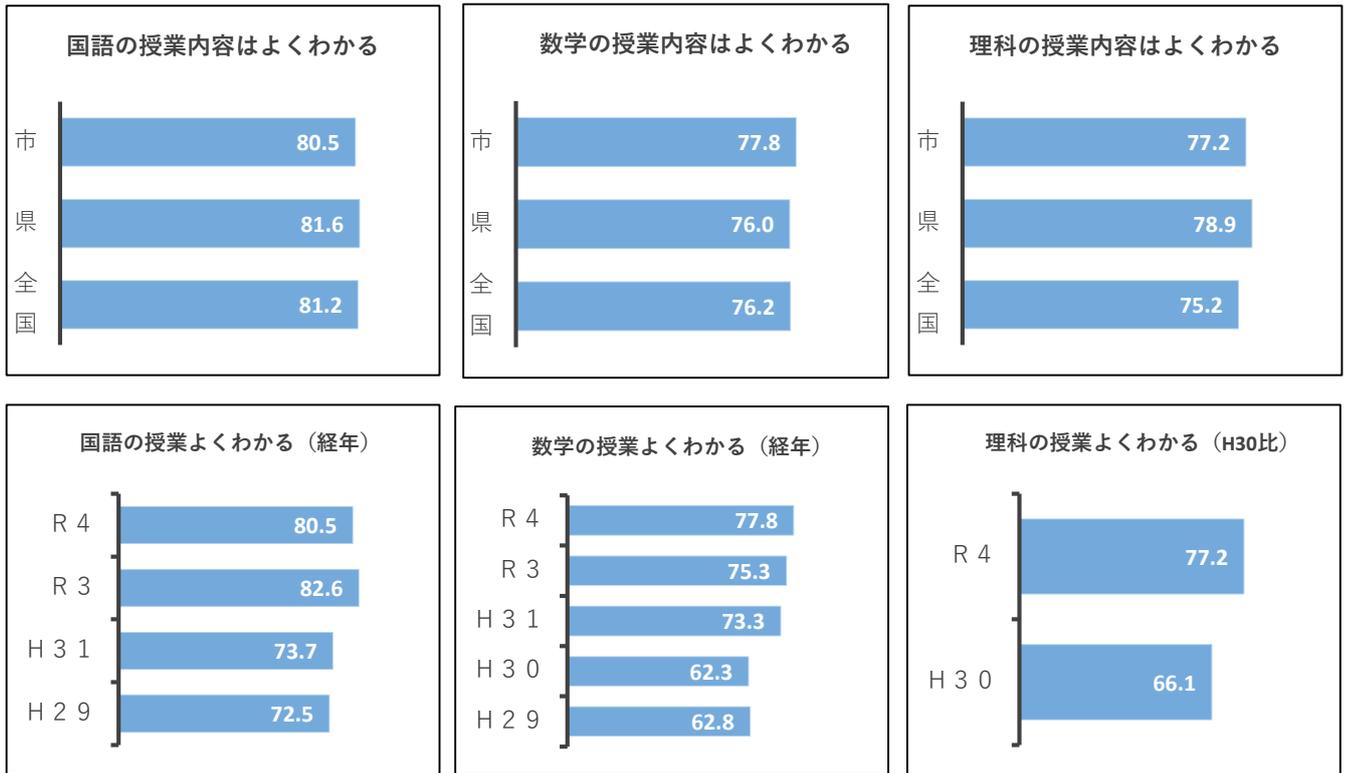
① 教科の勉強は好きだ。



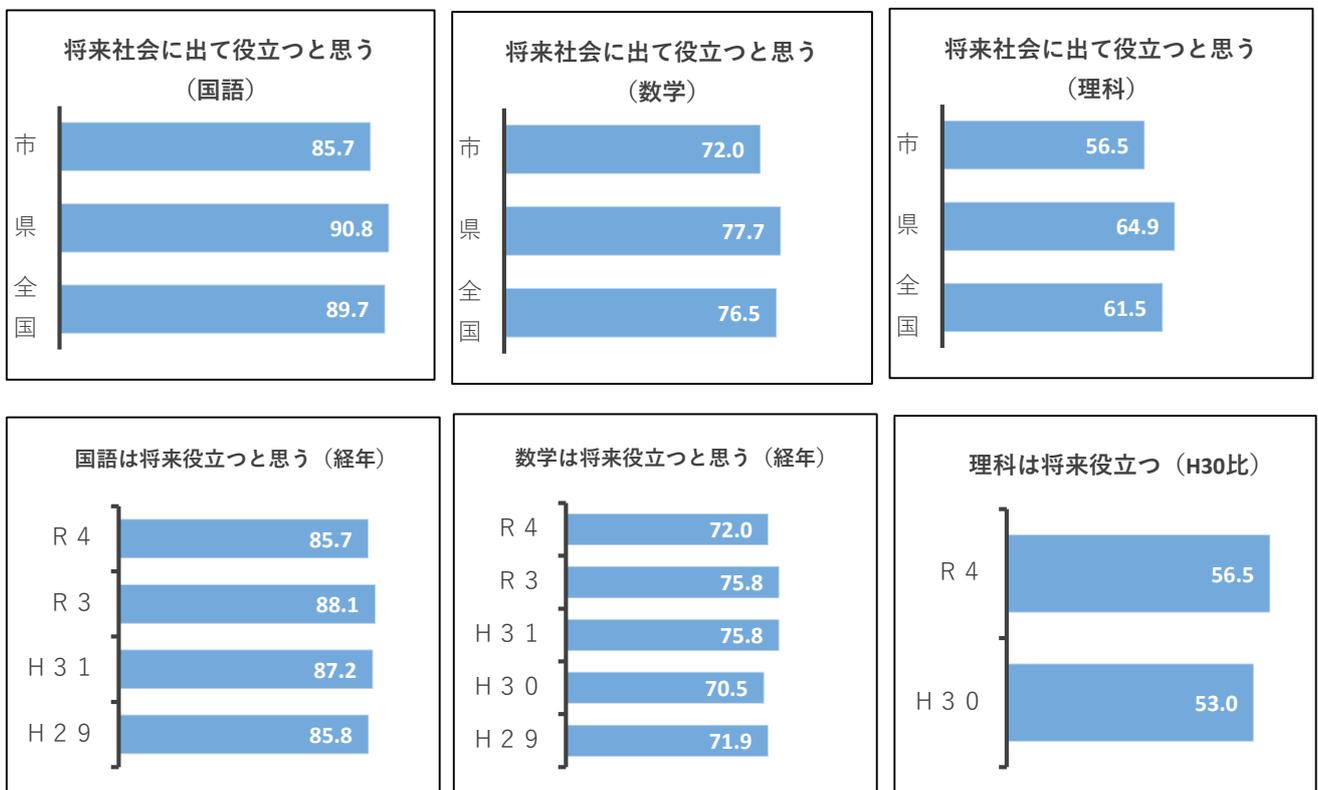
② 教科の勉強は大切だと思う。



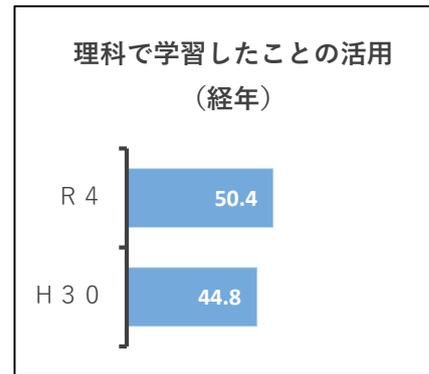
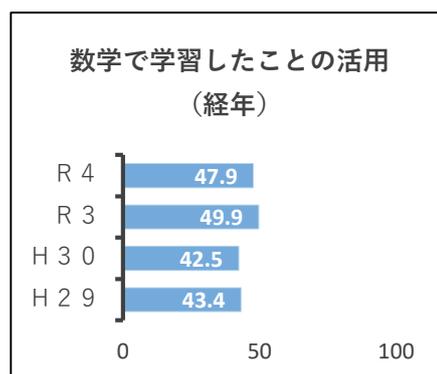
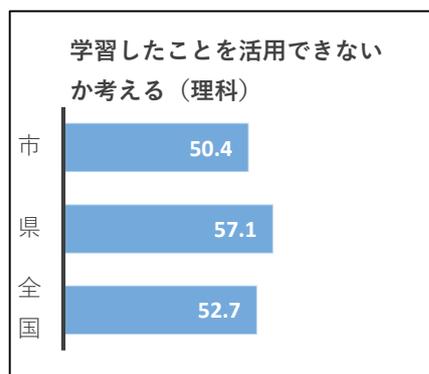
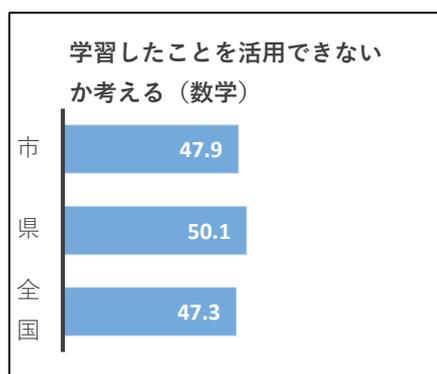
③ 授業の内容はよく分かる。



④ 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。



⑤ 授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える。



3 学力向上の対策

(1) 各学校における取組

取組①：自校の子どもたちの調査結果について全教員で分析し、学力向上に向けた取組（計画）を作成・共有し、小中学校が連携して実践していきます。

- 調査実施教科や対象学年だけでなく、学校や教科に共通の課題は、学校全体で取り組みます。
- 中学校区ごとに小中学校が一緒に授業研究を行ったり、望ましい生活習慣や学習習慣が身に付くよう共通の実践を行ったりして、子どもたちの学力向上に向けて取り組みます。

取組②：子どもたちにとって「分かる授業」を展開するために、個に応じた指導方法や「まとめ・振り返り」のさせ方等を工夫するとともに、家庭学習や次の学びにつなげる指導の改善を図っていきます。

- 子どもたちが主体的に考え課題を解決させていくときの基盤となる、基礎的・基本的な知識及び技能を、確実に習得させていきます。
- ペアやグループ・学級全体での話し合い活動を位置づけ、子どもたちが自分の考えを広げたり深めたりできるようにします。

- 個に応じた指導の場面や学習内容に応じてICT機器を効果的に活用していきます。
- 授業改善の成果を「活用力育成シート」※¹や「チャレンジテスト」※²により確認するなど、学習内容の定着を確認しながら学力向上を進めていきます。

※1「活用力育成シート」

県教育委員会が、小学4年生から中学2年生までを対象に、年2回作成している問題シートで、子どもたちの多様な問題への対応力が育成されるとともに、教員の授業改善に向けた参考資料にもなっている。

※2「チャレンジテスト」

令和元年度から市内全ての小学5年生（算数）、中学2年生（英語）を対象に実施しているテストで、結果については、子どもたちの学力について実態を把握するとともに、教員の授業改善に生かしている。作成にあたっては、各学校から推薦された教員により行っている。

取組③：よりよい学級集団づくりを行います。

- 学力向上の土台の一つとなるのが「望ましい人間関係」です。子どもたちが相互に自分の考えを安心して述べることのできる学級づくりのため「hyper-QU」※³の結果を全教員で分析し、対応策を共有し共通実践します。

※3「hyper-QU」

学校生活における子どもたちの満足感や意欲、学級集団の状態等について質問紙によって測定するもので、結果については、いじめや不登校の未然防止、よりよい学級集団づくりのために活用している。

(2) 教育委員会における取組

取組①：学校訪問や支援訪問等をとおして授業改善のための指導助言を行います。

- 今回の結果を踏まえて、学校の実情に応じた働きかけや支援をしていきます。
- 県教育委員会と連携し、指導主事の学校訪問や支援訪問をとおし、授業内容の定着及び習熟を図るための授業改善や各学校の課題解決に向け、学校に寄り添った指導助言を行います。

取組②：「チャレンジテスト」の作成・活用及び「活用力育成シート」活用のための助言や、それらを授業や家庭学習で継続的に活用していくための助言を行います。

- 「チャレンジテスト」について、作成に対する助言をしながら、教員と指導主事が一緒に問題を作ります。また、各学校において、テスト実施後に確実に解説を行い効果的な活用が図られるように助言するとともに、結果を踏まえた繰り返し学習や家庭学習に活用できる補助問題等を配付するなどの支援をしていきます。
- 「活用力育成シート」について、授業等における確実な実施を促し、子どもたちの学力向上につながるように助言をしていきます。

取組③：各学校の先生たちにとって効果的な研修会を開催します。

- 各学校のニーズに沿った内容の研修会等を実施し、各学校の課題解決を図ります。特に、ICT機器を効果的に活用した授業づくりについて、研修を進めていきます。
- 教育委員会で定期的に発行している「学校教育課だより」を継続して発行し、市内学校の効果的な取組や好事例について紹介していきます。

(3) 家庭・地域における取組

取組①：「あいづっこ『携帯・スマホ等使い方・使わせ方』宣言」を活用した取組を推進します。

- 家庭における携帯電話やスマートフォン等の使い方について、「あいづっこ『携帯・スマホ等使い方・使わせ方』宣言」を活用し、ルールづくり及び見直し等を推進していきます。

取組②：学校運営協議会による課題解決を進め、「地域総ぐるみで子どもたちを育てる環境づくり」に取り組んでいきます。

- 学校運営協議会委員の多様な人材の英知を結集し、学力向上に向けた取組を含め、各学校における課題解決に向けた協議を、引き続き進めていきます。

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

・ <https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果については

・ <https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/>

をご覧ください。

(国立教育政策研究所ホームページ)

